



# 関西玉龍

創刊号 2003年8月18日発行

発行人 関西玉龍同窓会

題字 岩崎照雄 (S26卒)

## 会報の発行に寄せて

関西玉龍同窓会会長 岩崎照雄 (S26卒)

関西玉龍同窓会の皆さん、お元気でいらっしゃいますか。暑さめげずにご活躍下さい。さて、この度、役員会では、会員各位のコミュニケーション広場として、会報を発行することになりました。これは、関西玉龍同窓会を特色ある有意義な同窓会にしたいという役員一同の熱意に応えて、編集委員長・古里洋津氏 (S33卒)、編集委員・上野紘一氏 (S36卒)、同・久永忠氏 (H9卒) が中心となって実務を担当し、実現させるものです。設立7年目を迎えたばかりの当同窓会としては、基金も乏しいので、ささやかな会報から始めざるを得ませんが、段々に、充実したものへと育てて行きたいと念願しております。会員各位からの幅広い情報提供をお待ちしております。

高校時代の同窓生の職業は実に多種多様

ですから、同窓会はいろいろと異なった体験や価値観を持った人々の集まりとなります。このような会員同志が、同窓の誼をもって親しく情報交換することは、会員各位の新たな発展の源泉にもなる可能性を秘めております。同窓の皆さん、できるだけ多くの情報を会報にお寄せ下さい。

また、同窓会では、なつかしい旧友たちの顔を見たときにタイムスリップして、一足飛びに青春時代へと若返ることができます。まさに、同窓会は若返りの妙薬であり、またストレス解消の特効薬でもあります。どうぞ、総会・懇親会にも、お誘い合わせのうえ、多数ご参加下さい。末筆になりましたが、会員各位のご健勝を心から祈念申し上げます。

目次:

会報の発行に寄せて 1

関西玉龍同窓会の発足について 1

菜の花会の集い 2

ある晩秋の東福寺の紅葉と加藤遊亀さんと陶芸 2

始めてみませんか! 3

60の手習い 4

## 関西玉龍同窓会の発足について

関西玉龍同窓会副会長 中原政介 (S26卒)

1980年(昭55年)12月末に玉龍が花園に来ることになり、私も応援のため花園ラグビー場へ。そこで昭和34年卒の松久保六男君(神奈川県藤沢市在住)、丸山宣武君(滋賀県草津市在住)、大津隆君(兵庫県神戸市在住)と偶然出会い、4人で食事をしました。そして関西にいる34年卒だけ集まって同窓会を始めようということになり、その後いつも10人あまりが集まって34年卒の同窓会がスタートしました。

ところが、1990年(平2年)玉龍の創立50周年記念に出席した時、同じクラスだった山元勝一君(当時玉龍で教員をしていた)から京セラの稲盛和夫さんを会長にして関西玉龍同窓会を立ち上げて欲しいとの依頼をうけました。丸山君と田中紀代子(S34卒)さんと私で相談しながら、2級上の人たち、2級下の人たちに声をかけて関西玉龍同窓会を発足しようということに。

そして1994年(平6年)1月、鹿児島のリイト工

業に勤務していた牛垣徹君(S34卒)が大阪に転勤で来て、牛垣君は本校と連絡をとりながら、当時福岡の会長をしていた30年卒の川北さんから牛垣君に連絡があり、大阪在住の吉田鍊磨(S30卒)さん、森口義美(同)さんに声がかかり、2月に吉田さん、森口さん、丸山君、牛垣君の4人が集まって、関西玉龍同窓会発足への話し合いがもたれ、4月5日、50周年記念の名簿から関西に住む500人の内、各学年幹事24人が発起人として集まり、6月14日に第1回の関西玉龍同窓会が、稲盛和夫京セラ会長を名誉会長に、岩崎照雄さんを会長に、京都のリーガロイヤルホテルで華々しく開催されました。

そして、今回9月27日(土曜日)にリーガロイヤルホテル京都で第7回の総会が開催されますが、関西玉龍同窓会は益々盛況に発展しております。

## 関西玉龍同窓会

【事務局の連絡先】

事務局長

丸山宣武 (S34卒)

〒612-0878

京都市伏見区深草田谷町1

聖母女学院短期大学

丸山気付関西玉龍同窓会

TEL: 075-643-6781

FAX: 075-643-8786

maruyama@jc.seibo.ac.jp

## “菜の花会（関西三一会）” の集い

玉龍高校を卒業して25年ぶりになる昭和56年の秋、関西在住で消息がはっきりしている2、3人のグループが、お互いに連絡を取り合い梅田の第一ホテルに10名程度集まった初会合がスタートだった。翌57年秋には人数も増えて20名近くが神戸・三宮の第一楼（中華料理店）に集まった。

その後、毎年大阪駅近辺を拠点に、中之島の竹友クラブ、JRの弥生会館、東梅田の焼鳥屋などで懇親会を行い、年々交遊の輪が広がっていった。

昭和61年には、関東の“紫陽花会（三一会）”と“菜の花会”とが合同で、卒業30周年を記念して、日本の中心地である京都で開催しようと言うことになった。開催日も紫陽花会の定例日にあたる6月第2土曜日の6月14日に京都・八坂神社と知恩院に隣接する“楠荘”で記念大会を行った。この時、鹿児島をはじめ全国の同期生にも声を掛け、また、近郊に在住の恩師、石井先生、北見先生、林先生にもご出席いただき百数十名が1泊2日を30年ぶりに懐かしく懇親した。

翌15日は、長年京都にお住まいの田淵（旧姓竹田）さんご夫妻の案内で、円山公園から二年坂を通り、清水寺を参拝。錦市場で買い物をしたあと、全員が「きんため旅館」で京弁当を頂き、その後、JR新快速で神戸へ移動。北野の異人館を見学し、ポートピアランドを散策後、夕方三宮駅前でお開きにした。2日目は少し強行軍だったが、皆さん元気いっぱい思い出に残る記念大会になったことと思う。

また、この年の秋には郷里の鹿児島城山観光ホテルで第1回三一会が開催された。これを機に「3年に1回鹿児島で会いましょう」をスローガンにして、現在も続いている。平成2年には、大阪鶴見緑地公園で“花博”が開催されたのを機に6月9日、心齋橋の後楽園ホテルで“花博記念大会”として全国の同期生にも声をかけ、1泊2日でこれも百数十名が集まり、盛大に懇親会を開催することができた。

菜の花会も今年で23年目を迎えるが、これまで色々なエピソードやハプニングもあった。中でもユニークな出来事は、有馬温泉に一泊旅行した時のこと。玄関の宿泊者名の看板に「関西玉龍三一会」と仰々しく掲載されていた。（当時はこの名称を使用、その後“菜の花会”とした）

集まる我が方のメンバーは、お淑やかで上品なご婦人方や温厚な紳士ばかりで、とてもどこやらの組織の“極道の妻たち”や“怖いお兄さん”には見えないので、客室系の女性が恐る恐

るというお客さんが確かめにこられた。事情を説明し、高校名と卒業年度であることを説明すると、やっと安心された。一時はどうなるかと大変に心配されたそうで、後から皆で大笑いしたことが、ついにこの間のように思われる。

菜の花会のメンバーもここ数年、還暦を前後にして、本人やご主人が定年を迎えられ、鹿児島へ帰郷される人が増え、参加者は約20名となってきている。そのため、最近では関西在住の同窓生で一部の後輩にも、鹿児島三一会のお兄さんの代わりとして出席してもらい、メンバーの一人として会を盛り上げるようにしている。また、兵庫県の居住者が多いことから、懇親会の場もこの10年は新神戸駅前のクラブにきめて、楽しい交友の場としている。

3年に1回の鹿児島での三一会も、最近では待ちきれずに、各地区の会へ出かける参加者が増えて、今年の紫陽花会（東京）には約50名が集まった。

今年は“菜の花会に集まろう”ということで、10月19日（日）に神戸ポートピアホテルで懇親会を開催することになっている。翌日はユニバーサル・スタジオ・ジャパンを見学する予定で、現在計画中。

これで菜の花会も京都、大阪、神戸と京・阪・神をひと巡りすることになる。

あっという間に23年が過ぎようとしているが、これからもお互いに健康管理に気をつけ、ますます元気で絆を深め、菜の花会を盛り上げ、発展させていくことを願っている。

（河野正義・S31卒）

## ある晩秋の東福寺の紅葉と 加藤遊亀さんと陶芸

紅葉の話には、まだずい分早いですが、ある晩秋の日の事を書くことにした。

昨年秋のこと毎日新聞の第1面に京都・東福寺の紅葉の風景写真が大きく掲載された。次の日曜日の早朝、私はまだ、まばらな乗客の京阪電車に乗っていた。下車する駅はもちろん「東福寺駅」。足早に東福寺境内の入り口の橋のたもとへ。まさに見事な紅葉が目飛び込む。さっそくイーゼルを立て、キャンパスを整える。絵の具をチューブから絞り出しはやる気持ちでスケッチ開始。

「なぜそんなにせかせか動くの？」と思われそうだが、理由は午前8時になると蛍光色のジャンパーと帽子、腕には腕章をまいた警備の人たちが通行整理の縄を張り出すのだ。そうすると、そこに居座っていらなくなるのだ。その時刻まであと30分しかない。

その時間がきた。大勢の人々が並び出した。



東福寺通天橋の紅葉

壁づたいから入り口の橋のたもとに差し掛かった瞬間、左方向に突然のように通天橋と紅葉が現れるのである。東北なまり、関東弁、九州なまり、多彩なアクセントが入り交じって「ワーすごい」の歓声がこの場所では上がる。それにもかかわらず警備の人は「橋の上には立ち止まらないで下さい。写真は1回だけにして」と声を荒げる。

そこには居られなくなり、よそで時間をつぶすことにし、平安神宮に行き水面に映る“泰平閣橋殿”を描くことにした。そして夕刻、改めて東福寺の紅葉の前に立った。西から照らす夕日が紅葉の繁みと通天橋を射して晩秋の一刻を表現する。この光景は30分と続かない。また、慌ただしい色塗りの作業。夕日に照らされた部分と蔭の部分との調和。通天橋の屋根と夕空との調和、忙しいけど、しびれるように素晴らしい一刻であった。

それまで、並んで飛んでいた鳥たちは、いつの間にか繁みの中に落ちていたようだが、よく見ると小枝に何羽もいる。

やがて暗くなり、絵はもう描けなくなった。何を書いたのか、終えてもみてわからない。しかし、今、つまらないと思っても集中して書いたことは確か。翌朝、改めて見てみると又、新しいモノが見えてくる。こんなことから油絵にとりつかれたのだと今思う。

筆などを片付けていると大本山の奥の方から後に親しくなった酒屋の店主がやって来た。大本山東福寺御用達伊部商店のご主人だ。「油絵は一日かかってこれくらい進むのですか」などいろいろ話しているうちに1枚買って下さることになった。

次の日曜の早朝、私は再び同じ場所で描ける時に恵まれた。目は紅葉の繁みとキャンパスとを行き来して忙しい。前は夕方描いたが、今度は朝日が向かいから輝る。夕日と朝日とでは正反対のコントラスト。またとないチャンスに慌て出して、別なキャンパスに始めから描き変えた。

この日も8時が来て同じポイントで描き続けることなどできない時刻になった。そして、また夕方、紅葉風景の前に戻って来た。絶好のチャンスに恵まれ、最終仕上げをして酒屋さんに手渡す約束通りの運びになっていた。

そんなスケジュールの中、描きながら酒屋さんと対話していると「吉田さん」と呼んでくれる人がいる。しかも、女性の声である。加藤遊亀さんだった。

加藤遊亀さん(S29卒)は私の1年先輩で、面倒見の良い人である。加藤さんとの最初の出会いのころ、彼女の旧姓が荒木さんだったので、宛名をうっかり荒木遊亀さんと書いたハガキを投函。でもちゃんと届いた。それもそのはずということが後になってわかった。娘さんが東福寺塔頭のご住職に嫁いでおられ、さらに息子さんが東福寺の境内で陶芸を営んでおられ、また境内の霊源院には、ご主人の迫力ある襖絵があり、愚妻とお邪魔して縁側から庭を眺めさせてもらった時は日本情緒の豊かさを感じ知った。

加藤さんは、玉龍高校時代は運動場から手の届く池之上町から登校しておられ、休み時間にはよく帰っておられたらしい。

小倉遊亀さんという有名な画家がおられたが、加藤さんの遊亀さんはどうして付けられたのだろう、まだそのエピソードを伺ったことはないが響きがいい。筆で書くと整っていて、草書で書くと芸術的にもなる。

昨年の同窓会に、ピンゴゲームの景品お願いしたら、電話一つで引き受けてくださった。後で聞くと数万円もする陶芸品で恐れ入った次第である。余りにも気前がよい彼女。でもいつまでも甘えていられないと思っているのだが。

関西玉龍同窓会で出会った思い出の一つ。男女にこだわり無く、この同窓会が無かったとしたらこんな回想もなかったことだろう。

(吉田錬磨・S30卒)

## 始めてみませんか！

市内の稲荷町で生れ育ち玉龍卒業の翌々日、現在の地・大阪へ夜行列車で19時間を要し上阪して半世紀が過ぎました。磯の浜と、桜島登山で鍛えた体が生かされ50年間病気知らずで過しております。

私たち男性は職場と家庭との定期便で、地域住民の人と会う機会が少ないですが、町内には色々な魅力を持っている人がいるはず。自分の住む町で、もっと人との交わりがあっていいはずと感じていました。日常生活の中でいざとなれば「遠い親戚よりも、近くの他人」の諺どおり、お互い助け合いが必要。ただ呆然と住んで居るだけでは人生が悲しいと思い、数名で話し合い、家族ぐるみで参加できる親睦会を設立して10年余。今では会員も30数家族となり、最低でも月1回の行事を行っております。行事を通して人の温かさ、思いやり、気配りまた、参加者を楽しませてやろうという心意気など人間

## 総会告知

第7回関西玉龍同窓会総会が9月27日、京都リーガロイヤルホテルで行われます。京都での集いは4回目です。総会に続いての講演会は玉龍OB(S37卒)公認会計士・吉水宏氏に分かりやすい経済学「日本経済再生のシナリオ」のテーマでお話しいたします。また、今回は初の試みとしてパーティー会場に故郷・鹿児島島の物産品即売コーナーを設けます。焼酎を始め、つけあげ、かるかん、漬け物からあくまき、お茶、玄米酢まで約40種類の特産品を取り揃えますのでご期待下さい。

総会は14時から、パーティーは15時からの予定ですが、当日は稲盛和夫名誉会長もご出席の予定です。皆さん、お誘いあわせの上、一人でも多くのメンバーの出席をお待ちしています。

【第7回総会のご案内】

日時

平成15年9月27日(土)

受付: 13:30-

総会: 14:00-15:00

パーティー: 15:00-

終了予定: 18:30

場所

リーガロイヤルホテル京都

2F貴船の間

的な触れ合いが楽しい会にさせました。  
人の心を温め、若い人を見守り、大先輩を友として大きな輪を広げつつあります。

以下、おもな行事内容です。

【インドアに関すること】会員相互の親睦を図るための会合、懇親会、室内娯楽(カラオケなど)観劇、書道など

【アウトドアに関すること】ソフトボール、ボウリング、ゴルフ、グランドゴルフ、ハイキング、旅行など

(松岡繁・S28卒)

## 60の手習い

玉龍高校同窓の皆様、それぞれお健やかに  
お過ごしのことと存じます。関西玉龍会報1号  
発行を記念してという事で紙上に皆様にお  
便り申し上げます。

現役時は仕事一筋?で(実は無趣味のため)何一つ習い事をしなかった私でしたが、旧友の勧めで思いもかけなかった“レーザークラフト”の世界へ入会したのが3年前。友人は20年来のベテランで、その間、素晴らしい作品を見せて貰いながら、自分には「とても出来ない」と決めています。でも、時間もあることだし、

彼女と一緒に楽しく過ごせるだろうと思い切って  
入会させてもらいました。小さなことからコツコツ  
と...と始めてみますと何と楽しい事でしょう。

優しい先生のご指導のもと、不器用な私でも  
一から全て心と力?(素人だから余分な力を使う)そしてこの私の手で作品が出来上がるのですから。(ただし仕上がりに具合は?)先生や先輩方のアドバイスをもらいながら手作りという作品作りにすっかりハマってしまい月2回のお稽古日を心待ちしている昨今です。物作りの楽しさを満喫しています。

そして作品作りと同じくらい楽しいのが先生を中心に5人での昼食時間帯のコミュニケーション、即ちおしゃべりタイム!皆、同世代なので“えんえんと話に花が咲く”って感じでどっちが主体かと...

こうして“レーザー”を介して知らなかった世界、縁の無かった方々と仲良くなり、たくさんの四方山話から多くの学習をさせて頂く日々感謝しながら暮らしています。

また、関西玉龍会に出席することでも多くの先輩・後輩の方々とお知り合いになれて世界が広がり、鹿児島出身であることの喜び・幸せ感など鹿児島県民としての“誇り”をこの年代になって実感している次第です。

そして今年も9月に一人でも多くの玉龍っ子の方々に会い出来るのを楽しみにしています。

(田中紀代子・S34卒)

## 鹿児島が近くなる

来年2004年3月、九州新幹線鹿児島ルート(新駅名は鹿児島中央駅)~新八代間(127.5キロ)が開通する。現在は西鹿児島から博多まで約3時間40分の所要時間が開業後は2時間10分に短縮される。全線が開通する10年後には西鹿児島から博多まで1時間20分でいけることになる。そうなれば新大阪から西鹿児島までは約3時間40分。鹿児島がグッと近くなる。列車の愛称も既に「つばめ」に決まり、9月下旬には試運転も始まる。西鹿児島駅周辺の整備も急ピッチで進んでいるが、新駅ビルは6階建て。屋上には直径60メートルの大観覧車が設置されるとか。

(上野紘一・S36卒)

## 編集後記

創刊号の発行にあたって多くの方から寄稿して頂きました。掲載できなかったものもありましたが、ご寄稿頂いた皆様には心からお礼申し上げます。

今号で掲載している文章は同窓生それぞれが歩んできた人生を想起させる文章であったと思います。「人に歴史あり」という言葉があるように、人生という名の歴史から醸し出される文章からは、その人独自の深さと重みを感じることができます。

そして、その根本には玉龍精神が息づいているのではないのでしょうか。校訓のひとつに「澆刺」という言葉があります。どの文章からも、同窓生が元気で生き生きしている様子を伺い知ることができます。

(久永忠・H9卒)

## 原稿募集中!!

関西同窓会情報紙編集委員会では、同窓生の皆さんがお書きになった原稿を大募集しています。皆さんの体験記、短歌や俳句など、どんな内容でもかまいません。読者参加型紙面にはなくてはならないものは、まさに読者の皆さんからの投稿原稿です。皆さんご自身の思いの丈を同窓会情報紙に綴ってみませんか。皆さん、ふるってご投稿下さい。

【投稿先】

会報担当・副会長 古里洋幸  
〒569-0036 高槻市辻子3-16-2  
TEL&FAX 072-671-6901  
E-mail ja3ckn@jarl.com

## 執筆者一覧

岩崎照雄(S26)「会紙の発行に寄せて」  
河野正義(S31)「“菜の花会(関西三一会)”の集い」 田中紀代子(S34)「60

の手習い」 中原政介(S34)「関西玉龍同窓会の発足について」 松岡繁(S28)「始めてみませんか!」 吉田錬磨(S30)「ある晩秋の東福寺の紅葉と加藤遊亀さんと陶芸」 編集委員(上野・久永)

## 編集委員会

編集委員長 古里洋幸(S33卒)  
編集委員 上野紘一(S36卒)  
編集委員 久永忠(H9卒)  
印刷 中原政介(S34卒)  
送付 茶園征也(S35卒)